

政策番号	1	政策分野	環境
------	---	------	----

基本方針	豊かな森林資源、伝統文化、進取の気性と創造の力など、京都のまちの特性をさらに高め、京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現をめざす。
------	---

担当局	環境政策局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関する主な分野別計画等	京（みやこ）の環境共生推進計画、京都市自動車環境対策計画（2011～2020）、京都市地球温暖化対策計画（2011-2020）、京都市エネルギー政策推進のための戦略京都市循環型社会推進基本計画（2009-2020）
----------------	---

## 政策の評価

### 1 客観指標評価

政策の客観指標評価	23年度 評価値	32年度 目標値	25 年度	26 年度	27年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 温室効果ガス排出量削減率(1990年度比)(%)	11.1	25	e	e	-2.1	-1.1	25	-4.4%	e
2 エネルギー消費量削減率(2010年度比)(%)	7.1	15	-	b	7.1	9.5	4.5	211.1%	b
3 本市が受け入れるごみ量(トン)	49.7万	39万	b	b	47.2万	46.1万	46.1万	100.0%	a
			d	c					c

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	25年度	26年度	27年度
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全(2指標)	a	a	a
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現(3指標)	a	a	a
0103	ごみを出さない循環型社会の構築(3指標)	a	a	a
	(3施策平均)	a	a	a

政策の客観指標総合評価	25年度	26年度	27年度
(政策の客観指標評価: 施策の客観指標評価=1:0.5)	—	b	b

### 2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		25年度	26年度	27年度
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	c	b	c
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	b	b	b
3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	b	b	b
4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。	c	c	c
5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	c	c	c
6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	a	a
7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	a	a	a
	市民生活実感調査総合評価	b	b	b

### 2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

25年度		26年度		27年度	
順位	%	順位	%	順位	%
3	91.1%	3	91.8%	4	89.1%

### 3 総合評価

<b>B</b>	<b>政策の目的がかなり達成されている</b>		
<p><b>【客観指標】</b>●温室効果ガス排出量については、エネルギー消費量が基準年度(平成2年度)以降で最も少なくなるなど着実に減少している一方で、火力発電への依存度の高まりに伴う電気のCO2排出係数の悪化により、基準年度に比べ温室効果ガス総排出量が増加(+1.1%)し、3年連続e評価となった。</p> <p>●エネルギー消費量は、産業部門(工場等)及び運輸部門(自動車・鉄道)における着実な減少に加え、市民及び事業者の省エネや節電の取組により、民生・家庭部門及び民生・業務部門(オフィス等)においても減少してきているため、2年連続b評価となった。</p> <p>●生ごみ3キリ運動等の啓発に加え、平成26年6月から実施した雑がみの分別・リサイクルの全市展開、また、事業ごみ減量の取組として、大規模事業所への立入調査及び許可業者搬入手数料の改定(800円/100kgから1000円/100kg)を行ったことなどにより、本市のごみの受入量は着実に減少(△2.3%)し、b→a評価と前年度から改善した。</p>		26年度	B
<p><b>【市民の実感】</b>●全体として昨年度と同様の評価となり、ごみ減量・再資源化の取組は、3年連続a評価と安定して高く評価されている一方、再生可能エネルギーの活用や環境にやさしいライフスタイルへの転換については、3年連続c評価が続いている。</p> <p>●省エネ・省資源や公共交通機関の利用、生活環境の保全については、3年連続b評価と安定している。</p> <p>●子どもたちの自然環境への意識については、自然観察会やこどもエコライフチャレンジをはじめとした環境学習の取組を推進しているものの、b→c評価となり、子どもたちが自然環境をかけたえのないものと実感していると多くの方が感じる段階には至っていないと考えられる。</p>		25年度	C
<p><b>【総括】</b>●客観指標については、温室効果ガス排出量は、外的要因が大きく影響することから、e評価となったが、エネルギー消費量は、市民及び事業者の節電、省エネ等の取組成果により、着実に減少し、また、ごみ量についても、着実に減少していることから、客観指標総合評価はb評価となった。</p> <p>●市民の実感は、これまでの取組が徐々に浸透していると考えられ、継続してb評価と肯定的な評価を得ている。</p> <p>●こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>			

#### 今後の方向性の検討

#### ＜この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)＞

施策番号	施策名	総合評価		
		25	26	27
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全	A	A	A
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現	B	B	B
0103	ごみを出さない循環型社会の構築	A	A	A

#### ＜今後の方向性＞

●京都市生物多様性プラン(平成26年3月策定)に掲げる普及啓発の取組を推進するなど、京都の豊かな自然環境と生物多様性に支えられてきた暮らしや文化を守り、継承・発展させていくとともに、大気や水質等の環境調査、公害発生源に対する調査、指導を行い、生活環境の保全に取り組む。

●エネルギー消費量が減少している一方で、基準年度(平成2年度)に比べ温室効果ガス排出量は増加していることから、京都市エネルギー政策推進のための戦略(平成25年12月策定)に掲げる「原子力発電に依存しない持続可能なエネルギー社会」や京都市地球温暖化対策計画(平成26年3月改定)に掲げる「持続可能な発展が可能となる低炭素社会」の実現に向け、徹底的な省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの飛躍的普及拡大を図るとともに、環境にやさしいライフスタイルへの転換に向け、地域ぐるみで取り組む。

●平成27年3月に策定した「新・京都市ごみ半減プラン」の初年度として、力強いスタートを切り、今後もピーク時からの「ごみ半減」の実現に向け、丁寧な周知に努め、資源・エネルギーの有効利用と環境負荷の低減を図り、市民、事業者の皆様とともに循環型社会の構築に取り組む。

●以上の取組を通じ、京都のまちがもつ市民力・地域力を結集し、京都議定書誕生の地として、「DO YOU KYOTO?(環境にいいことしていますか?)」を合言葉に、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」を目指す。

政策名	1	環境
指標名	温室効果ガス排出量削減率〈1990年度比〉(%)	
担当部室	地球温暖化対策室	連絡先 222-4555
<b>1 指標の説明</b>		
京都市域からの温室効果ガス(二酸化炭素、メタン等)年間排出量の、1990(平成2)年度比における削減率		
<b>2 指標の意味</b>		<b>3 算出方法・出典等</b>
自然環境を気遣う低炭素社会の実現に向けた進捗状況を示す指標		{1-対象年度排出量(万t)/1990年度排出量(万t)} × 100
<b>4 数値</b>		
10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 11.1	平成32年度目標値 25
根拠 京都市地球温暖化対策条例 京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>		
	前回数値 24年度 -2.1	最新数値 25年度 -1.1
	推移 1.0ポイント増	単年度目標値 数値 25
数値		根拠 京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>に掲げた平成32年度達成目標値
		達成度 -4.4%
	全国順位	中長期目標
		数値 40%
		目標年次 42年度
		達成度 -2.8%
		根拠 京都市地球温暖化対策条例
<b>5 評価基準</b>		<b>7 評価結果</b>
最新数値が a: 25%以上 b: 18.75%以上25%未満 c: 12.5%以上18.75%未満 d: 6.25%以上12.5%未満 e: 6.25%未満		25 26 27
<b>6 基準説明</b>		e e e
京都市地球温暖化対策条例及び京都市地球温暖化対策計画<2011-2020>に掲げた、平成32年度までの排出量25%減達成(削減率25%以上)をa評価とした。また、0%(平成2年度から全く削減できなかった場合)~25%を等分し、b~eの4段階評価とした。		
備考 算定に用いるデータの公表時期の関係から、25年度の値が最新となる。なお、国に合わせて算定方法を変更したため、24年度値が「-1.0」から「-2.1」に、23年度評価値(20年度値)も「11.4」から「11.1」に変更している。		

指標名	エネルギー消費量削減率〈2010年度比〉(%)	
担当部室	地球温暖化対策室	連絡先 222-4555
<b>1 指標の説明</b>		
京都市域における年間総エネルギー消費量の、2010(平成22)年度比における削減率		
<b>2 指標の意味</b>		<b>3 算出方法・出典等</b>
原子力発電に依存しない持続可能なエネルギー社会の実現に向けた進捗状況を示す指標		{1-対象年度消費量(TJ)/2010年度消費量(TJ)} × 100
<b>4 数値</b>		
10年後の(平成32年度)目標値	平成26年度評価値 7.1	平成32年度目標値 15
根拠 京都市エネルギー政策推進のための戦略(平成25年12月)		
	前回数値 24年度 7.1	最新数値 25年度 9.5
	推移 2.4ポイント増	単年度目標値 数値 4.5
数値		根拠 平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値
		達成度 211.1%
	全国順位	中長期目標
		数値 15%
		目標年次 32年度
		達成度 63.3%
		根拠 京都市エネルギー政策推進のための戦略
<b>5 評価基準</b>		<b>7 評価結果</b>
最新数値が a: 15%以上 b: (1.5×t) %以上15%未満 c: (0.75×t) %以上(1.5×t) %未満 d: 0%以上(0.75×t) %未満 e: 0%未満 ※ t = 基準年(2010年度)からの期間		25 26 27
<b>6 基準説明</b>		- b b
平成32年度までの10年間で15%削減する目標であるため、単年度目標は、単純計算で単年で1.5%づつ削減すると考える。 例) 4年目では6%(=1.5%×4)が目標値となる。 評価年度で、平成32年度目標を上回る場合をa、単年度目標以上である場合をb、単年度目標の半分以上の場合をc、半分未満の場合をd、基準年より削減されていない(0%未満)の場合をeとする。		
備考 算定に用いるデータの公表時期の関係から、25年度値が最新となる。		

政策名	1	環境
-----	---	----

指標名	本市が受け入れるごみ量（トン）
-----	-----------------

担当部室	循環型社会推進部	連絡先	213-4930
------	----------	-----	----------

**1 指標の説明**

本市が1年間に受け入れるごみの量

**2 指標の意味**

循環型社会の構築に向けた進捗状況を示す指標

**3 算出方法・出典等**

出典：事業担当課調べ

**4 数値**

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	49.7万	39万	京都市循環型社会推進基本計画(2009-2020)

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度
	25年度	26年度		数値	根拠	
数値	47.2万	46.1万	1.1万トン減	46.1万	平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	100.0%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値					

**5 評価基準**

最新値－目標値が、  
a：0トン以下  
b：0トン超～3.8万トン以下  
c：3.8万トン超～7.6万トン以下  
d：7.6万トン超～11.4万トン以下  
e：11.4万トン超

**6 基準説明**

当年度の目標値（46.1万トン）を達成した場合をa、京都市循環型社会推進基本計画（2009-2020）の基準年度（平成20年度）のごみ量（57.4万トン）を超えた場合をeとし、b～dは等間隔（約3.8万トン間隔）で基準を設定

**7 評価結果**

25	26	27
b	b	a